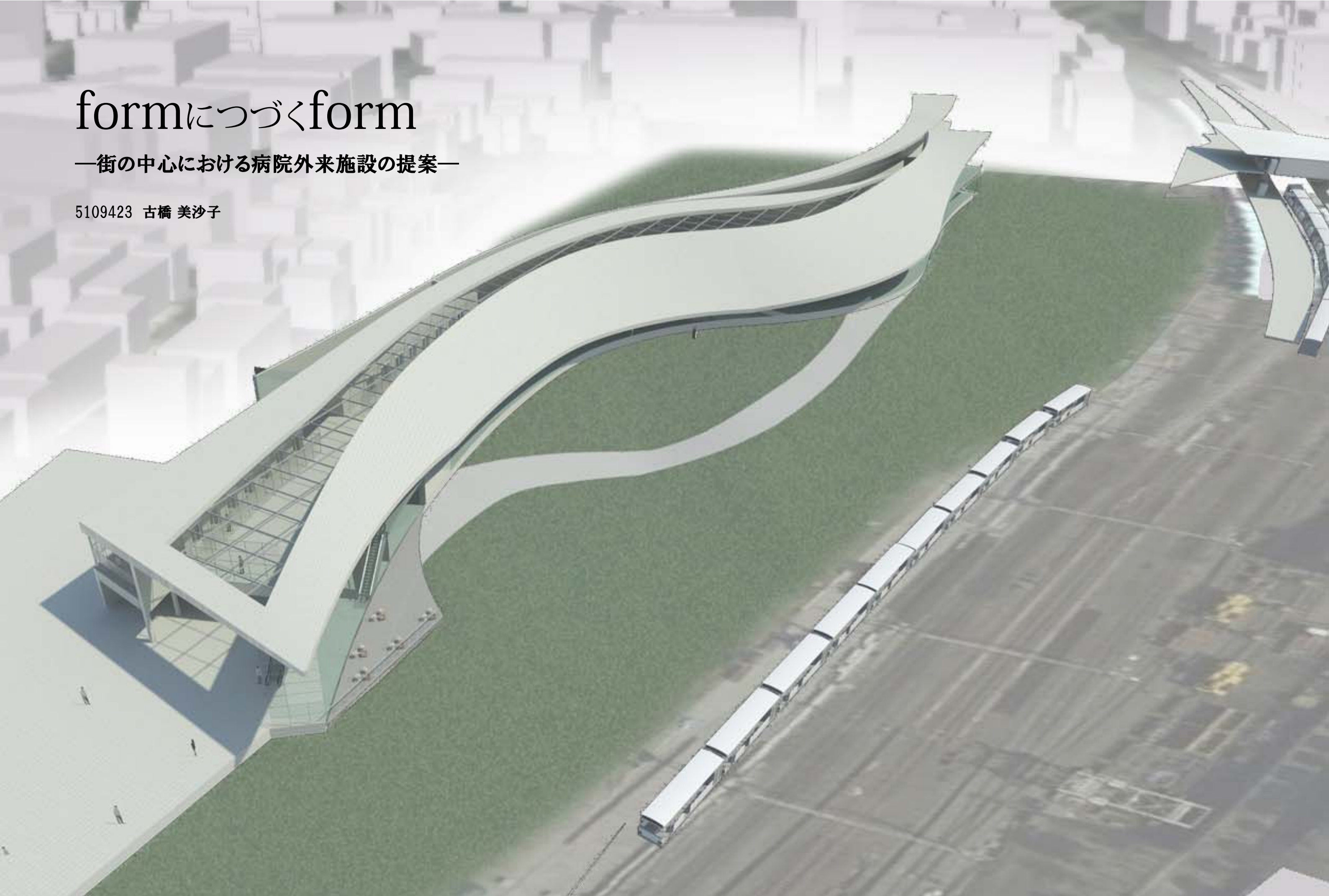


formにつづくform

—街の中心における病院外来施設の提案—

5109423 古橋 美沙子



Concept

街の中心に 医療施設を提案する

今までの総合病院の形態は、基壇型或多翼型と呼ばれる医者動線の効率化を考えた設計となっている。その結果、密な空間となり、四角い箱の中の待合室は暗いイメージである。

しかし、現在、患者のカルテが電子化され、医者や看護師が動きまわる必要性はなくなる。
従来の密な空間を自然光の入る細長い形態を提案する。

今回設計したのは、入院施設を持たない、外来専門の病院施設クリニックである。
駅にあるべき機能を考え、
総合病院の外来機能を独立させ、自然光の入る形状とした。

診察の空間は、なるべく自然光を取り入れた空間にし、
内側にカーブした曲線上に配置することで、どこの診察室に行けばいいかわかりやすいサイン計画にした。
街に開きながらも患者のプライバシーを考える。

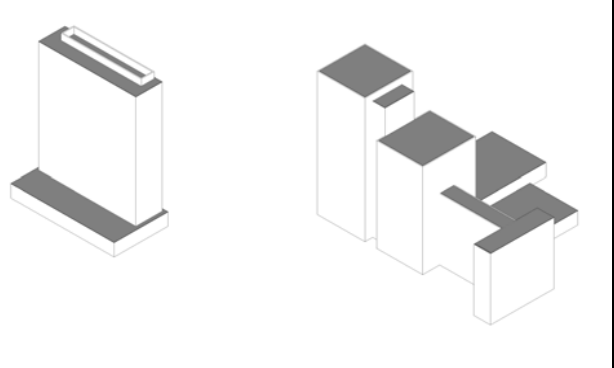
駅に近く、会社や学校帰りに立ち寄れる病院。

待合室という概念は捨てて、施設の中であればどこで待っていてもいい。
本屋にいたり、カフェにいたり、フリースペースでは仕事をしながら待てる、そんな駅の施設である。

chapter1

prologue

総合病院の主な形態



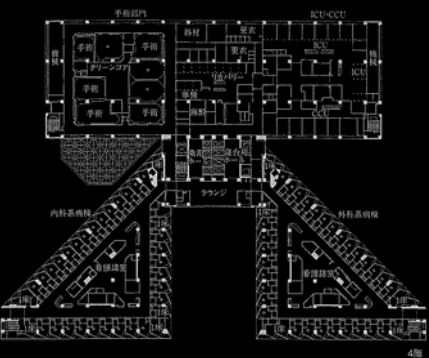
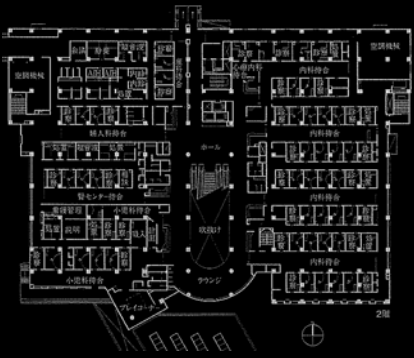
総合病院の外来部門を独立させる



従来の密な空間を
自然光の入る細長い形にする

紙のカルテ→電子化

により医者や看護師の動線も
変わってくると考える



chapter2

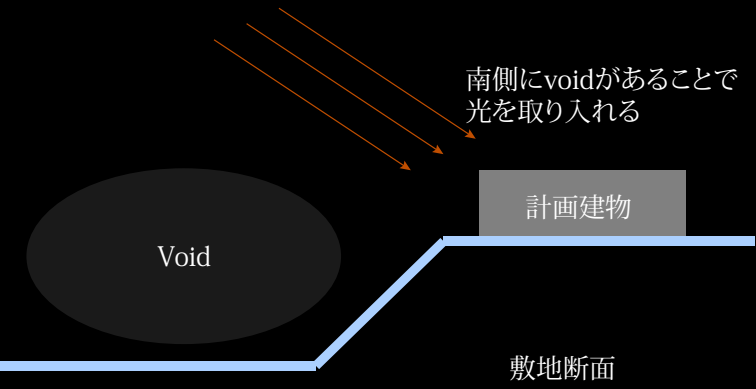
site

敷地：梶が谷駅 （神奈川県川崎市）

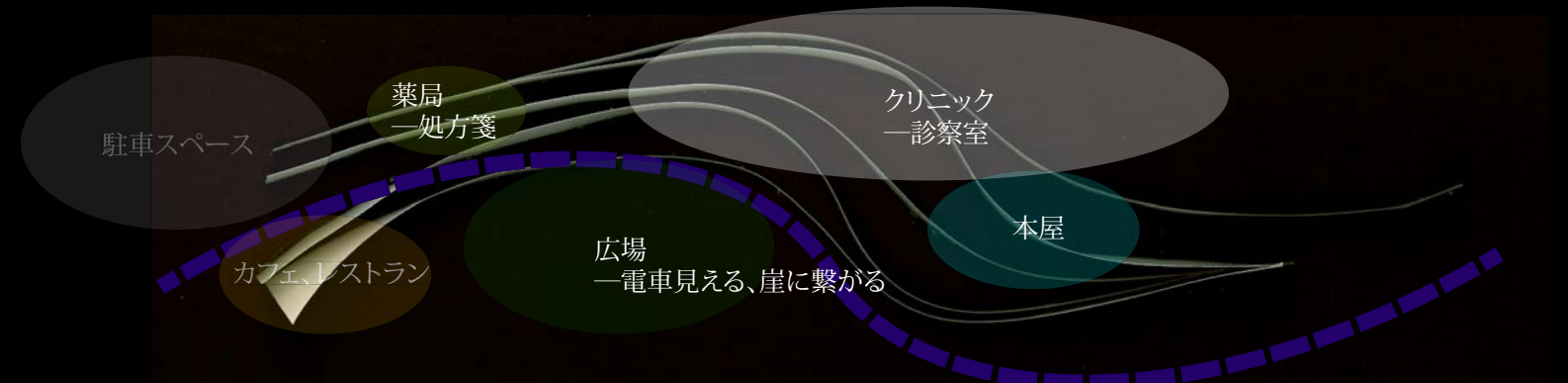


敷地条件

- 1. 駅の近く
- 2. 細長い敷地
- 3. 敷地の南側にヴォイドがある



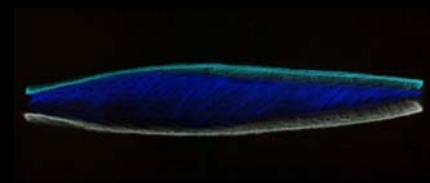
chapter3 program



chapter 4 form study

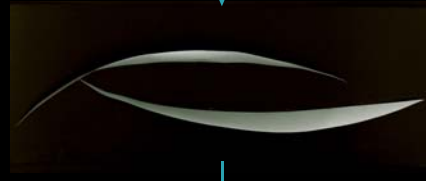
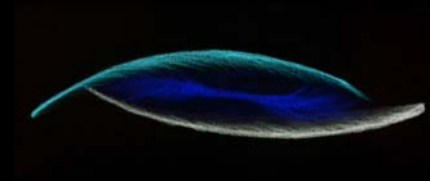
動線から考える
image sketch

2層のボリュームを与える
solid

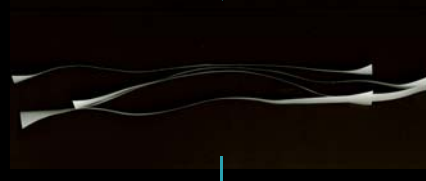
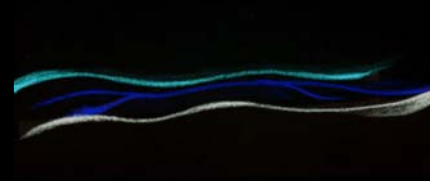


細長いform
動線を空間にする

1. クリニックに向かう人
2. 駅に向かう人
3. その他



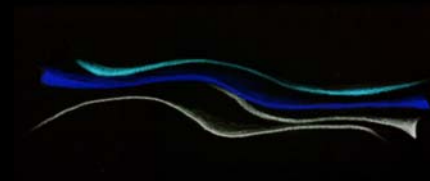
主となる施設、クリニックに
ボリュームを与える
閉じた空間をずらす
開放感をもたせる



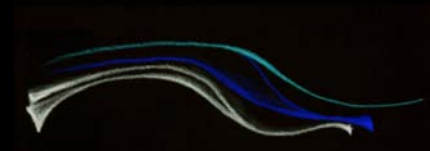
左右の入り口を開く
分かりやすい動線
動線は交差させない



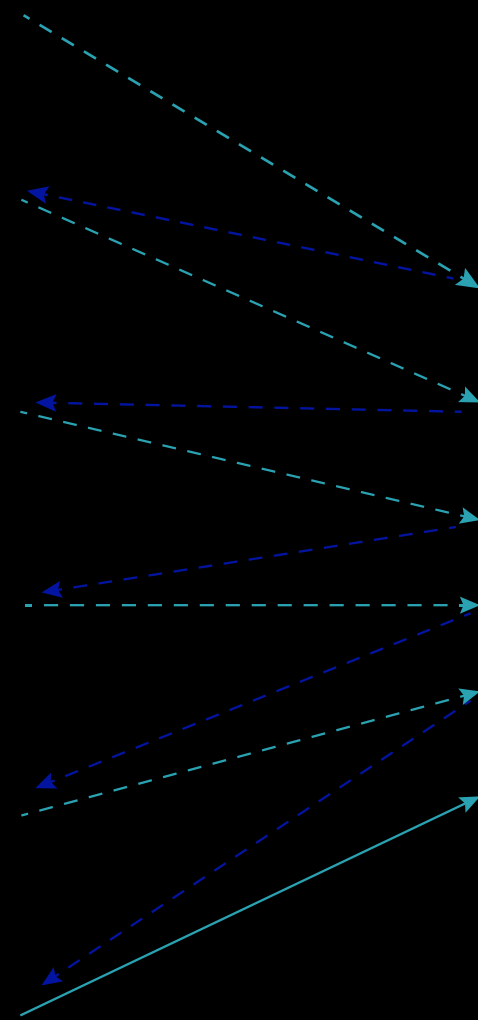
中央に空間をもたせる
機能をもたせる
総合受付の位置の決定



幅の操作
プログラムに必要な幅 5 m



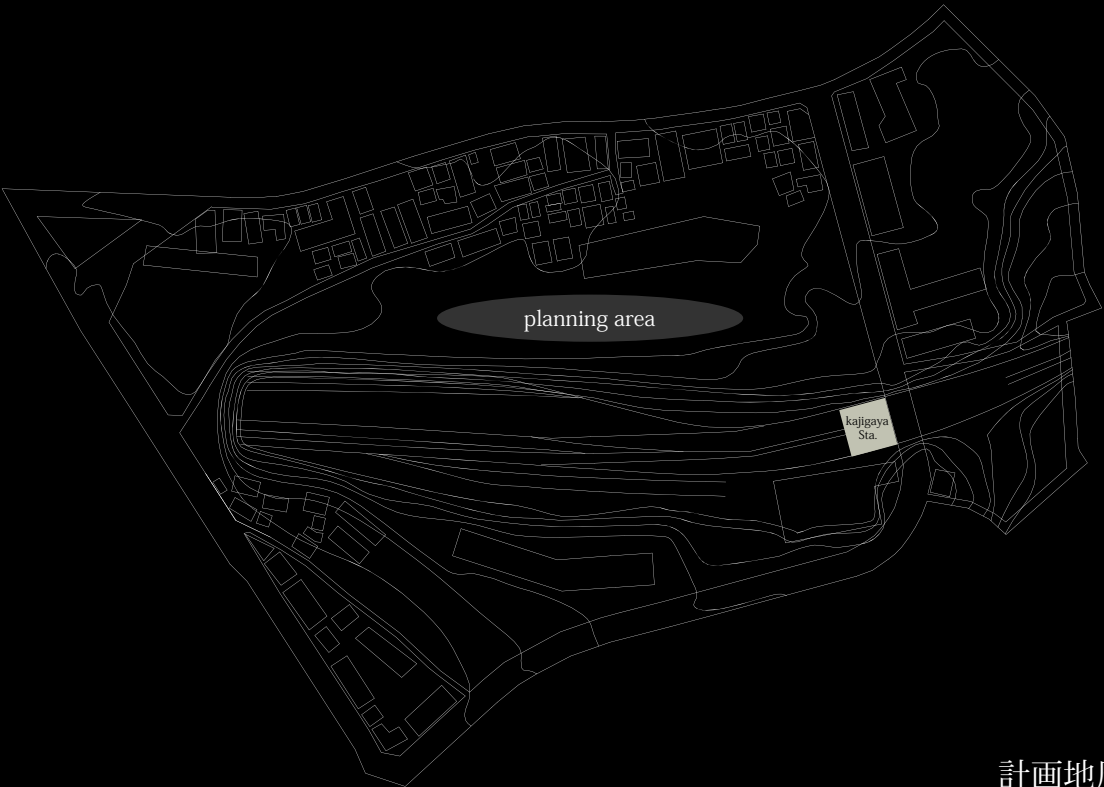
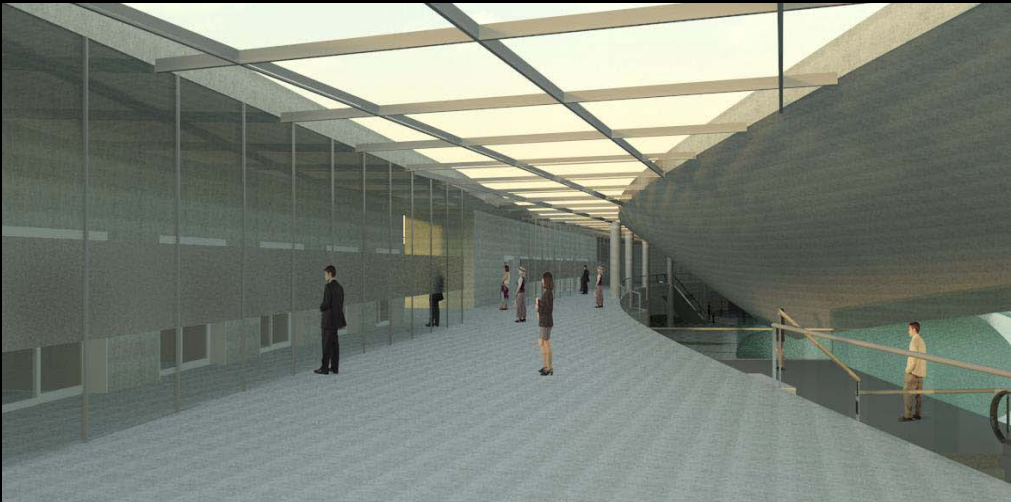
地形に沿う等高線の形状
→崖を取り込む
電車が見える広場を設ける



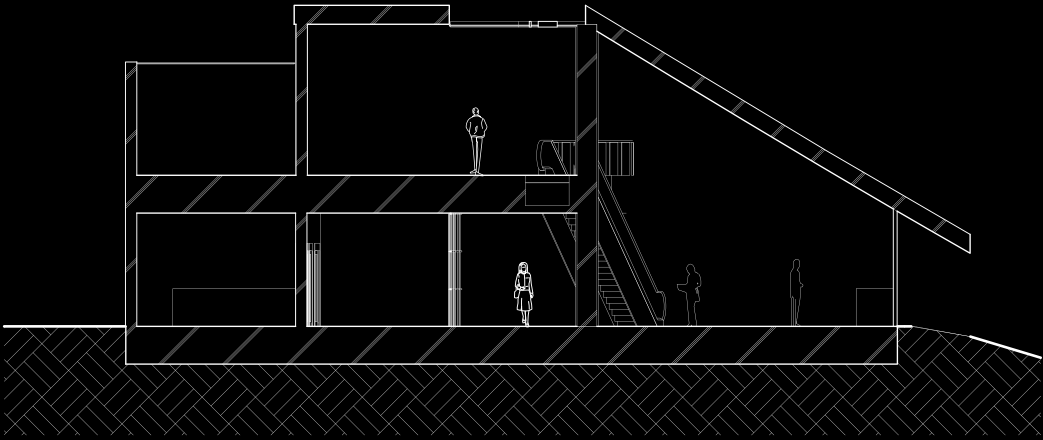
chapter5 form logically

なぜ、細長いかたちにするのか

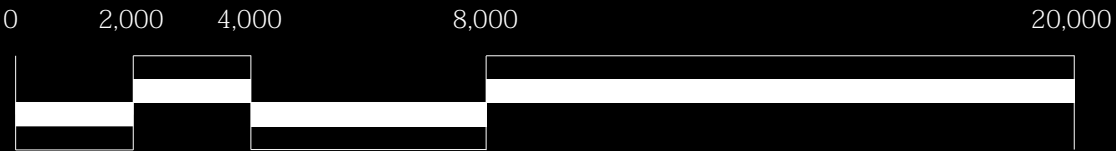
- 1. 表面積を増やし、自然光を取り入れた空間にする。 → 等高線から形のヒントを得る
崖のformにつづくform
- 2. サイン計画、ゆるやかな曲線により、
どこの診察室に入ればいいかが一目でわかる

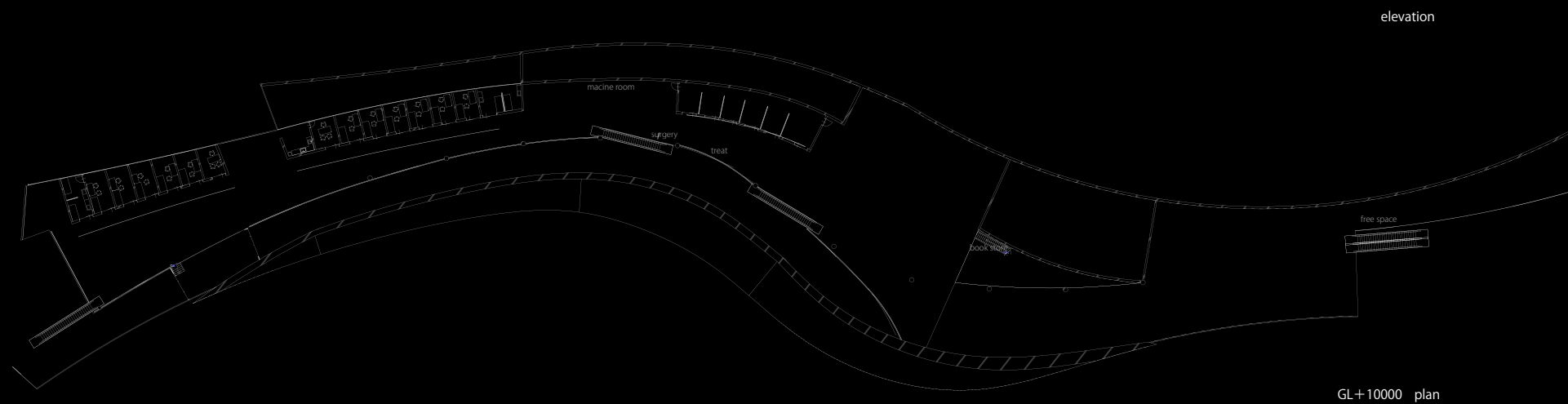


計画地周辺敷地



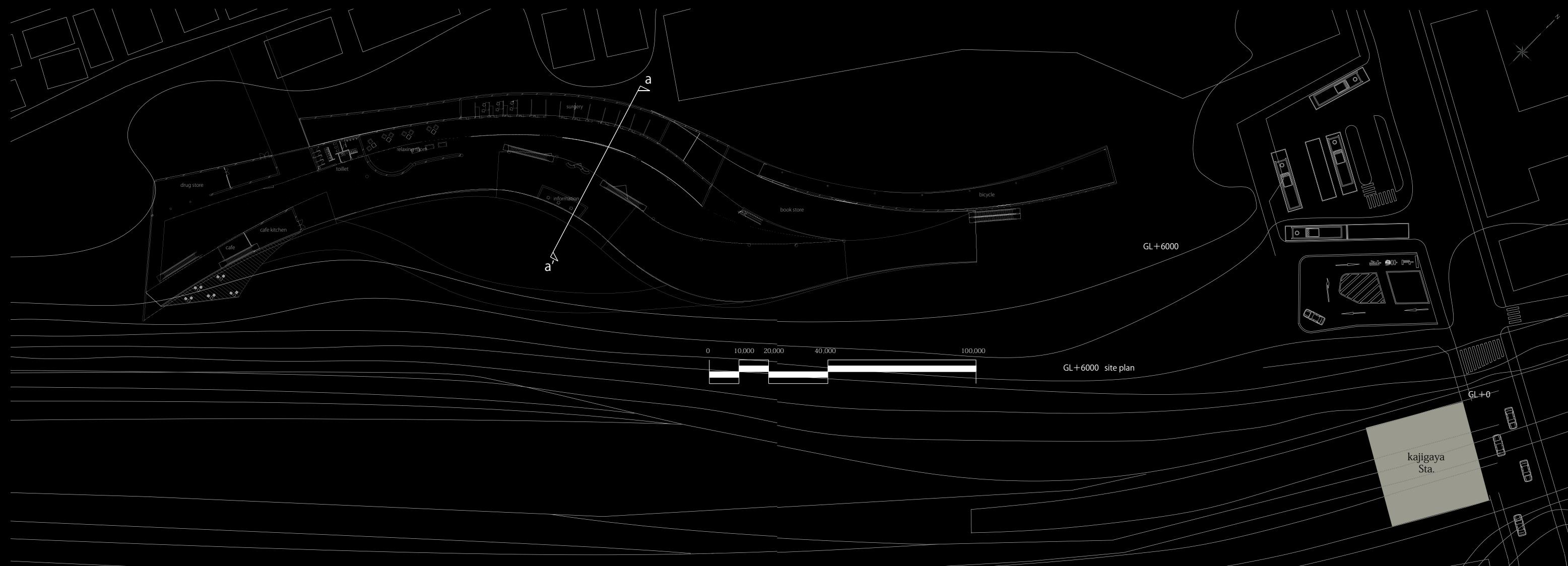
a-a' section

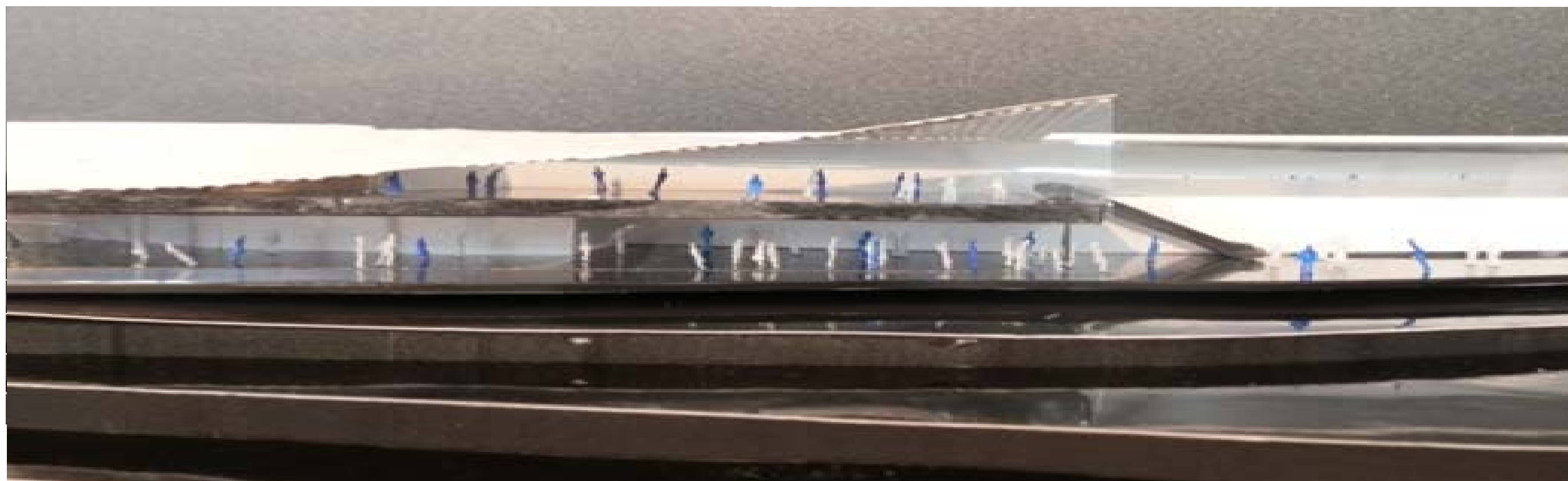


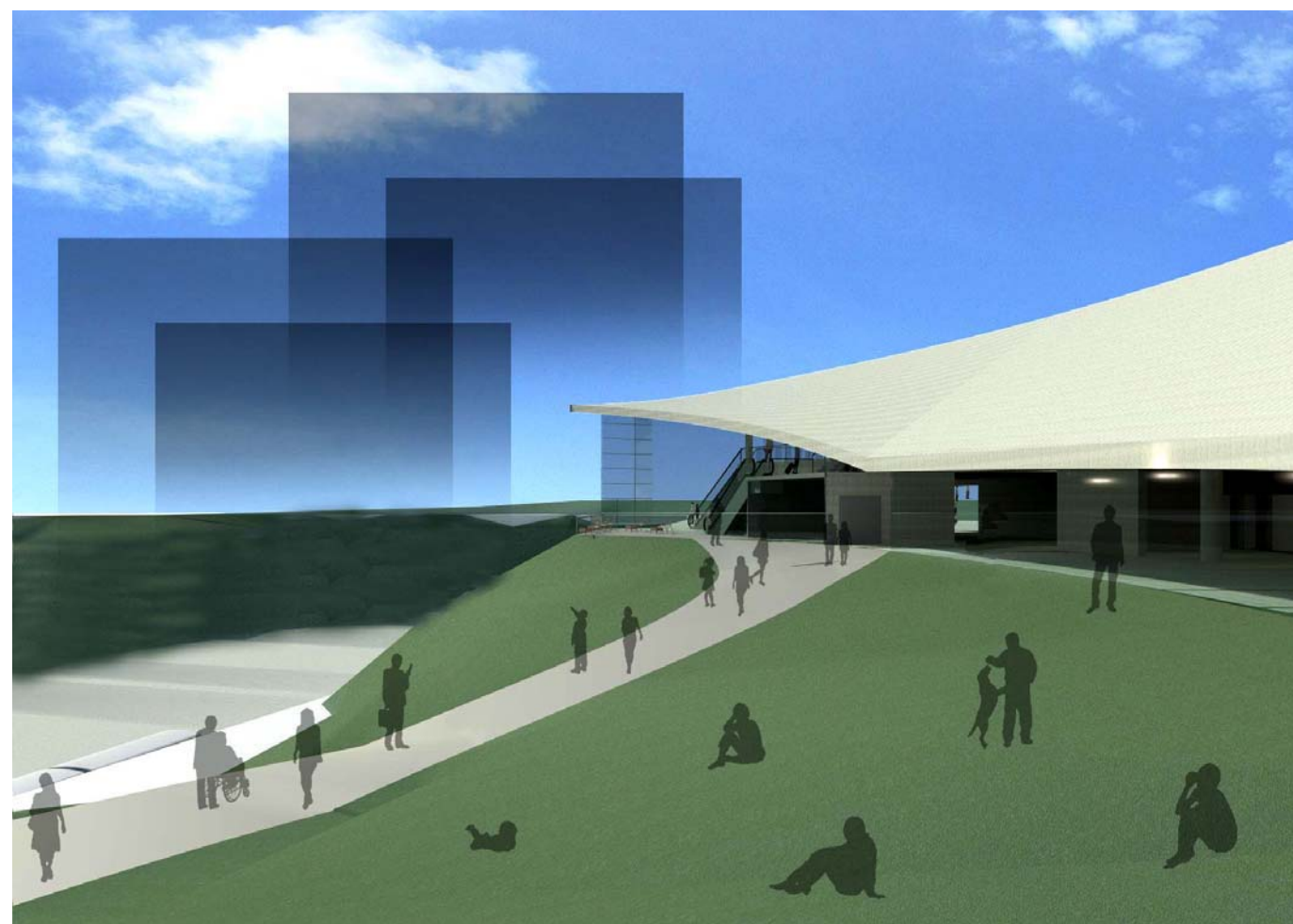
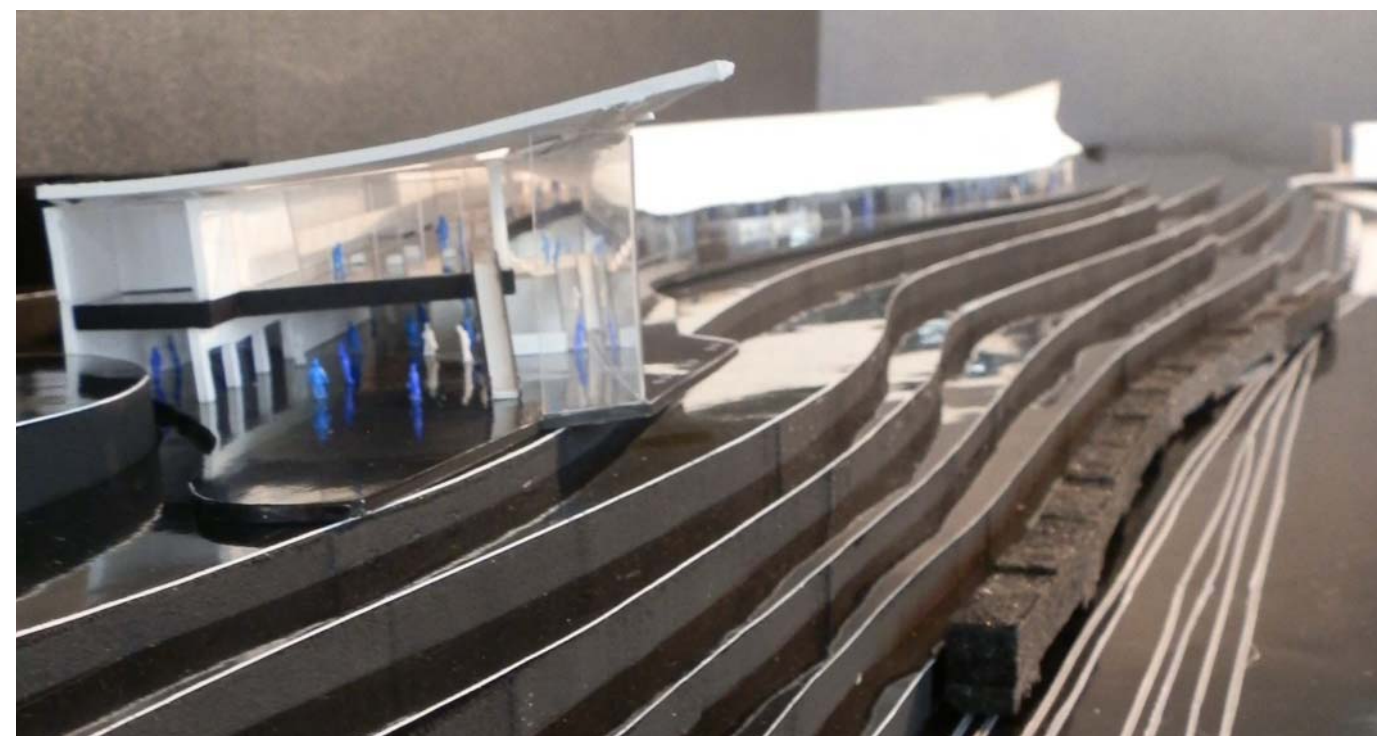
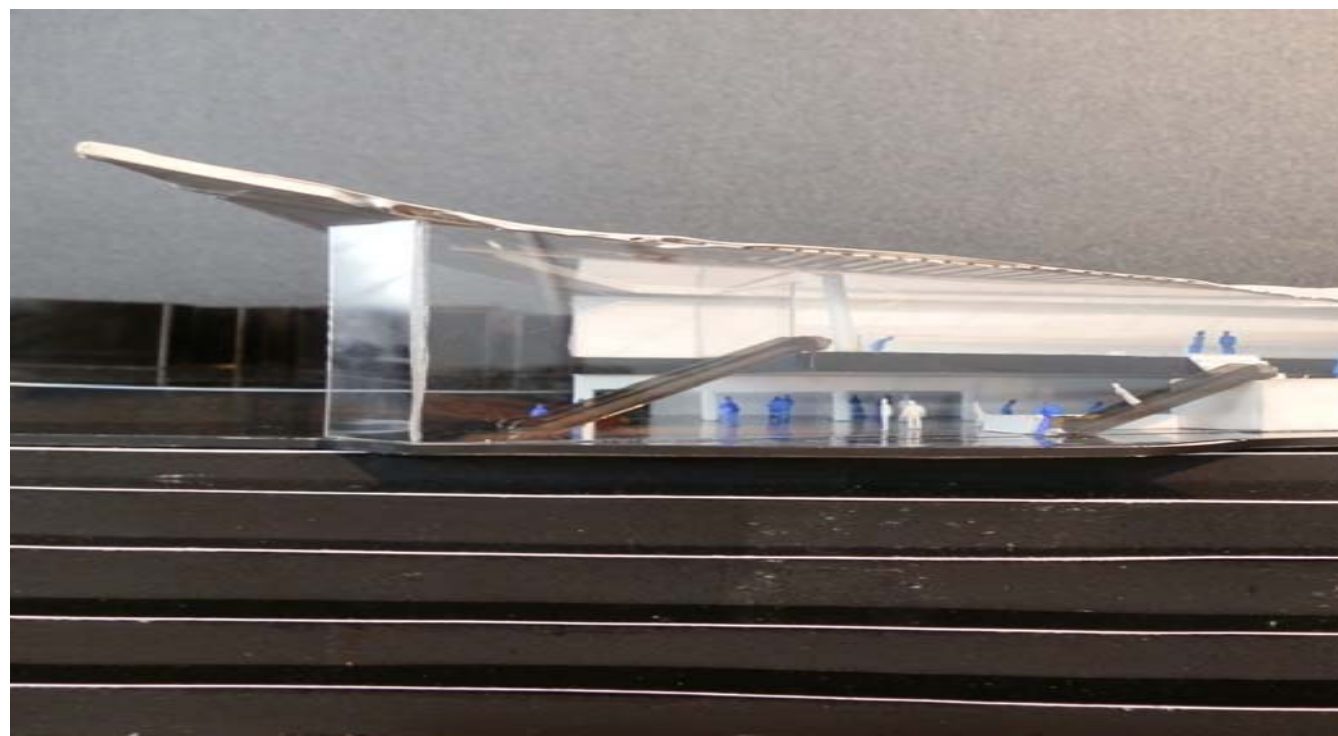


elevation

GL+10000 plan









総合受付前（駅に繋がる通り）

